

# 同窓生からの手紙

滋賀県出身。平成28(2016)年、大学院修士課程認識形成系教育コース(社会)を修了し、4月から滋賀県立東大津高校の教員に。現在、1年生の世界史と2年生の倫理を担当している。



こすがたかのり  
**小菅貴紀**さん  
滋賀県立東大津高校教諭

## 実習で学んだことを胸に日々奮闘しています

### 2

年間の大学院生活では、現職教員を含むコースの仲間や社会人を経験した寮の仲間など、さまざまな年齢・立場の方々と共に学びました。また、就職アドバンスプログラムの実習では、校長OBである指導教員や実習先のメンターの先生から細やかな指導を受けることができ、教員としての自分自身の強みと弱みを見つめ直す機会となりました。指導教員の先生の「詰めが甘いから気を付けなさい」という言葉は、今もしっかりと胸に刻んでいます。大学院では、教科に関する

専門的な知識だけでなく、教員として大切なことを学べた、恵まれた学生生活を送ることができたと感じています。

学校現場に入り、5カ月がたちました。分掌の仕事、教科指導、部活動など初めてのことがばかりですが、先輩教員に支えられながら日々、教育活動に取り組んでいます。大学院での出会いと、この5カ月を振り返ると、先輩方の助言を素直に受け入れる謙虚さが大切だと実感しています。先輩方から多くのことを学びながら、生徒たちと共に成長していきたいです。



←長野県菅平でのラケット部夏合宿の様子

## LETTERS FROM OB & OG

丹波市出身。平成13(2001)年学校教育学部幼児教育専修を卒業後、丹波市内の幼稚園に勤務。第1子と第2子続けての産休・育休で5年半、子育てに専念。今年度から職場に復帰した。



ひがしのともこ  
**東野倫子**さん  
丹波市立崇広幼稚園教諭

## 育児中の経験が視野を広げるきっかけに

→「くりぼん会」でのわらべ歌遊びの様子。丹波地域の親子が集まり里山遊びをする同窓会には、毎回10組〜20組が参加しています



**産** 休・育休が明け、この4月から幼稚園教諭として復帰しました。大学を卒業後、幼稚園の教育現場で働いていた私にとって、子育てに専念していた5年半の間に出会った人々や出来事は、価値観や教育観を大きく広げるきっかけとなりました。特に、親子で多くの時間を過ごした「くりぼん会」では、とても豊かで幸せな時間を過ごすことができました。子どものペースで里山や川でお散歩を楽しんだり、一緒に採った自然の恵みを使ってお菓子を作ったり…。子どもたちは大人の気配を感じな

がら、群れて遊んで伸びていく。それを大らかに見守るお母さんたち。いろいろな人との関わりの中で成長していくわが子たちとの緩やかな時間。そんな中で、一人一人をありのまま受け止めることや、子ども自身がもっている伸びていく力を信じて待つことの大切さを再認識しました。

久しぶりの保育で悪戦苦闘の日々ですが、目の前の子どもたちとしっかりと向き合えるような保育をしていきたいです。在学生の皆さんも、その時、その時の出会いを大切にしていてください。

### ▶ 同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

#### 教育実践研究活動に係る表彰について

8月6日、7日に大阪市で開催した第36回大学院同窓会大阪大会で、平成28(2016)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高

めた修了生が対象。今年は4人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。  
◎表彰者(敬称略)  
嬉野賞／大前泰彦(14期・生徒指導、和歌山県)、小西豊文(3期・教育方法、大阪府)、藤井一光(7期・社会系、兵庫県)  
奨励賞／小橋拓司(24期・社会系、兵庫県)